

発刊のことば

著者	小松 周吉
雑誌名	教育工学研究 = Studies in educational technology
巻	1
ページ	1
発行年	1976-03-15
URL	http://hdl.handle.net/2297/24927

発刊のことば

「学制」が頒布され、近代的学校制度が発足したのは明治5年のことであった。この頃から黒板や掛図を使って一斉教授が行なわれるようになったのであるが、これは寺子屋時代の、筆子が一人一人師匠から手習を習う学習法に比べれば、まさに画期的なことであり、いわば教育における「産業革命」であった。一人の教師による大量教育の出現であったからである。

さてそれ以来今日に至るまでの約百年の間、ペスタロッチーの直観教授、ヘルバルト学派の五段教授法、デューイの生活単元学習など、さまざまな教授理論とその方法が移入されたが、黒板と掛図と、そして実験設備などによる授業形態は、基本的には変わらなかった。そして、そうした授業の計画、実践、評価などについての研究は、教材研究、研究授業や、実践記録の分析など、すべて教師の経験に基づく技能や勘に頼って行なわれて来たのである。

もちろんこうした授業研究の方法によっても、全国各地で、すぐれた成果があげられていたことはいうまでもない。とりわけ教材の分析や構成の面ですぐれた研究が数多く発表されて来たことは衆知の通りである。

しかし、科学、技術の進歩が著しく、全面発達を目指す教育と授業法が高度に要求されている現在においては、単に教師の経験と勘にのみ頼る教授法或はその研究方法のみでは、十分ではない。授業の目標達成に至る過程を組織化してこれを一般化し、授業の「名人」たらずとも、普通の教師であれば、誰でも駆使できるような授業法を開発することは今日の急務といわなければならない。教育工学に大きな期待がよせられる以所である。

さて、待望の教育工学センターがわが金沢大学教育学部に設置されたのは昨50年4月のことである。以来一年足らずの期間であるが、創設の準備作業を進める一方、着々と研究を推進し、その成果をまとめてここに「教育工学研究」発刊の運びに至ったことは、まことに喜びに堪えない。各方面の忌憚のないご批判を賜わり、今後の研究の発展のために資することができれば幸いである。

なお本センターの創設と研究の推進にあたっては、センター長山崎豊教授以下各センター教官、センター運営委員会委員の各教官、学部附属学校関係教官のみなみなならぬご努力、さらには、センターの事業にご協力、ご支援をいただいた石川県教育委員会、金沢市教育委員会、ならびに研究員として直接研究に参加していただいた北陸地区の多数の公私立学校教官に対し、心から敬意と感謝の意を表したい。また昨年10月大阪大学人間科学部へ転任された、水越敏行助教授の本センターの創設と研究推進のために尽された絶大なご功績に対しては深甚の謝意を表する次第である。

昭和51年3月1日

金沢大学教育学部長

小松周吉